

## 追手門学院大学 舞台表現プロジェクト STEP 第16回公演「こころの扉」 多様な性表現テーマに学生が脚本を手掛けた演劇

社会問題等を題材にした演劇を通じた表現活動からコミュニケーションスキルや他者との協働力を学ぶ追手門学院大学（大阪府茨木市、学長：真銅正宏）舞台表現プロジェクト（通称：STEP）は6月25日から28日までの4日間、茨木安威キャンパスで第16回公演「『こころの扉』 - 着飾らない自分にしか、見えない景色がある - 」を上演します。

今回の公演は、脚本を手掛けた学生自身の経験を着想にした作品で、近年社会的な関心が高まっている「SOGIE（性的指向、性自認、性表現）」をテーマに据え、高校の文化祭を舞台に、多様な価値観の中で「自分らしさ」や「本音」と向き合う生徒たちの姿を描きます。

脚本を手掛けた経済学部3年生の間屋（といや）哲志さんは、幼いころから動物のぬいぐるみなどの「可愛いもの」が好きだった一方で、小・中学生の時に間屋さんは両親や友達に言い出せず、本音を押し殺して過ごしていました。

その後、知人のコスプレを楽しむ姿を見て「自分らしく生きる素晴らしさ」に気付き、多様性を伝える作品を執筆しようと思い立ったと話します。間屋さんは「演劇を通して、まずは多様性を認知して欲しい。性的指向や性自認によって他人との違いに悩む人がいることに気付いてほしい。そのうえで、本音で伝えることの大切さや、少しでも多くの人にSOGIEへの認知が進めば」と意気込みます。

4日間の公演では、1年から4年までの約30人の学生が役者や小道具、照明などの役割で参加します。演出を担当する地域創造学部3年生の吉田陽希さんは「今回は『服』が物語のキーポイントになるため、衣装は例年よりもこだわっている。メンバーが全力で作った作品を、ぜひ会場で楽しんでほしい」と公演に力を込めました。

入場は無料で、一般の観劇も可能。公演最終日には、本学社会学部 松谷容作教授によるアフタートークも予定しています。

### 【公演概要】

日時： 6月25日（木）18:15 開場 / 18:45 開演  
 6月26日（金）18:15 開場 / 18:45 開演  
 6月27日（土）14:00 開場 / 14:30 開演  
 6月28日（日）13:30 開場 / 14:00 開演（※終演後にアフタートークを実施）

場所：追手門学院大学 茨木安威キャンパス 学生会館2階 展示室（大阪府茨木市安威2丁目1-15）

料金：無料

申し込み：<https://stage.corich.jp/stage/453228>

### 【あらすじ】

女装がしたいという気持ちを胸の奥に押し込めたまま過ごしてきた高校2年の黒松音（クロマツ オト）。周囲の目を気にして、本音を隠し続ける日々を送っていた。そんな中、文化祭の出し物が「男女逆転喫茶」に決まり、音は初めて自分の想いを言葉にしてクラスメイトに伝える。それをきっかけに、それぞれが抱えていた本音や価値観がぶつかり合い、すれ違いながらも、交わりはじめ、少しずつ「こころの扉」が開かれていく――。



この資料の配付先：大阪科学・大学記者クラブ、北摂記者クラブ等

【発行元】

追手門学院 広報課 TEL：072-665-9166 織田・所